



わたしたちの作品



上厚真小 4年

松田 恵里香さん (10)

「虫捕りをしている自分を版画にしました。背景の部分が多かったので、削るのが大変でした」

上厚真小 4年

増田 友美さん (10)

「クラブ活動で絵手紙を作っているところを版画にしました。手の影が上手にできたよ」

ぼくの・わたしの  
クラスじまん

ともだちっていいな



その68

あつま ちゅうがっこう  
厚真 中学校



紹介してくれたのは…

厚真中学校 3年生のみなさん

(書いてくれたのは) 澤田拓弥くん

僕達、厚真中学校三年A組のクラスを紹介します。僕たちのクラスは、男子二十一人、女子十六人で三十七人もいる生徒数の多いクラスです。男子の数が多く、何事にも熱が入り、行事などでは全員で力を合わせる団結力のあるクラスです。普段はやんちゃばかりですが、女子とも仲が良く、楽しい学校生活を過ごしています。運動にも力が入るクラスです。男女混合でもバレーやサッカー、野球、そのほかどんな運動もみんな楽しんでむことができます。でも、僕たちはもうすぐ卒業です。みんな離れてしまうのは寂しいですが、また何年か後に、今のこの厚真中三年A組のみんなで会えることをとても楽しみにしています。あと少しですが、楽しく、思い出に残る学校生活をしていきたいです。

## 厚高インフォメーション



(左上から)ランタン作成、灯火後、和太鼓教室で学ぶ生徒たち



94

### 2月の行事

二年生は町のランタン祭に参加しました。二月二日、二年生全員でランタンを並べに河川敷へ行きました。デザインしたのはディズニータップとデールです。そのときの様子を二年生の蛸子さんは「クラスが協力して作業ができました。一通り並べ終えてからも、『ここを移動させたほうがよい』など手直しをして、細かなところまでこだわった自信作です。翌晩橋の上から見たランタンの絵は想像していたとおりに輝いていました」と話していました。

また、一年生は和太鼓の体験をしました。厚真塊打太鼓の森田会長が来校して指導をしてくださいました。一年生の石井さんは「太鼓は初体験でしたが、森田さんが親切に教えてくださいました。声を出しながらリズムをとることを教えていただいて、だいぶ叩けるようになりました。最後はグループであわせて叩き、みんなと一体感を持つことができました」と感想を語ってくれた。

三年生は二月に家庭学習、三月一日に卒業を迎えました。

一、二年生はほかにも予餞会、普通救命講習、合格体験発表会、スキー学習と、二月は行事満載！の厚真高校です。

## 今月の記念日

### 3月4日は「ミシンの日」

一七九〇年に、英国のトーマス・セントが世界で初めて皮革を縫うミシンを発明しました。一九九〇年（平成二年）がちょうど「ミシン発明二百年」にあたることから、社団法人日本縫製機械工業会が、平成三年に制定しました。

糸を使い衣服を縫い合わせるミシンは、私たちの日常生活に欠かせない「衣・食・住」の衣を支えています。家庭用ミシンは、家庭にとつての必需品から、現在では、趣味として手軽に衣服や小物を作るための存在に変わりつつあります。時代は移り変わっても、自らの手で衣服を作ること、その喜びを味わえるミシンの魅力は変わらないことはありません。

そうした魅力を伝えようと、日本縫製機械工業会では、「三月四日はミシンの日」関連事業などを通じて、ホームソーイングの普及に努めています。小中高校生を対象にした「ホームソ

## 文芸あつま ◆短歌◆

沈黙をつづけし冬の山々もひと雨ごとに芽吹きはじめぬ

(宇隆 加賀谷 明美)

息子は我に春の花東プレゼント誕生祝ひと爽やかに言ふ

(本郷 武田 弘子)

東の間の弥生の日差しに福寿草黄にかがよひぬ眩しき程に

(本郷 飛谷 愛子)

(あつま文芸友の会発行『文芸あつま 第十二号』から抜粋)

「ホームソイング作品コンクール」は、次代を担う若い世代にミシンを使用した作品作りを通して、手作りの喜びやソーイングの楽しさを認識してもらうために、毎年開催されています。平成十八年に行われた関連イベントでは、手回しミシンのようなアンティークミシンから最新型の家庭用ミシンまで展示され、ミシンの歴史を振り返るとともに、最先端の技術が紹介されました。

ミシンは長く使うものですから、購入の際は、しっかり情報を集めることが大事です。機能面や価格面で差があるため、使用目的と予算に合わせて購入を検討します。ミシンは縫う材料を送りながら、針と糸で縫っていくので、どのような素材の生地を縫うのかを想定して選ぶようにしましょう。

